

# J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



「鬼は外、福は内」の2月になりましたが、この寒い季節をいかがお過ごしでしょうか？ 気の合う仲間とワイワイ食卓を囲めば、冬もまた楽しい季節かも。鬼さんもこっちに入りませんか？ 今月はJ-DAVID研究会事務局で会計担当の田原英樹先生にメッセージをいただきました。

## 役員からのメッセージ

### 「ビタミンDに魅せられて」

大阪市立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学  
田原 英樹 先生

ビタミンDの研究をはじめ、ちょうど四半世紀がたちました。大学院へ入り、故森井浩世先生からビタミンDを用いた研究をするように仰せつかり、長いビタミンDとの付き合いが始まりました。当時は昭和大学の阿部悦子先生が「ビタミンDの細胞分化誘導作用」を世界ではじめて報告され、元来抗くる病・骨粗鬆症治療剤として認識されていたものが、これを境に多面的作用を有するホルモンであるという認識が広がっていった時期でした。私もご多分にもれず、細胞の増殖や分化に対する作用を研究するようになりました。実際に自分で研究をしてみると、単にビタミンの一種としてしか考えていなかったものが、細胞の増殖・分化に作用し、免疫系に影響を与えるという結果を得て、この物質に対して虜になったことが今でも鮮明に記憶されます。

当教室では、いろいろと国際学会を開催させていただく機会が多々あり、そのたびに、この分野で有名な先生方を日本へ呼び出すことができました。そのため、医局員が呼び出した先生方の観光案内することがあったのですが、私もお声がかかりビタミ

ンDを精製されたDr Hector F Delucaのお供をする機会が与えられました。その中で、ビタミンD研究の楽しさをお聞きすることができ、より一層ビタミンDの魅力に惹かれたことを覚えております。また、丁度留学も重なり、紙面に書ききれないほどのビタミンDやPTHを専門とする有名人達の中で研究生活を送り、ビタミンD研究の素晴らしさを体験することができました。

年々ビタミンDに関する論文が増えてきているようですが、まだまだ判らないことが多く、その機序解明に夢をふくらませるのですが、特に体中に存在する、ビタミンD受容体(VDR)や1 $\alpha$  水酸化酵素を介した多面的作用が、本当にどれほどの力を持っているのか興味は尽きません。実際に臨床の現場では、高くなったPTHを抑えるために使用される静注ビタミンDパルス療法のすばらしい切れ味を体感しますが、経口薬のビタミンDの投与が維持透析患者さんたちの予後を改善するかは、まだまだ自信なく迷うのが現状かと思われま

す。J-DAVIDもあと二年ほどで結果が出てくると思われま

すが、毎日奔走されている庄司哲雄先生の陰で、この研究が成就することを祈り、自信を持って患者さんに投与できる日が来ることを切に願っています。



## 最近の文献から

### CKD患者におけるFGF-23, 高感度トロポニンと左室肥大

#### Fibroblast Growth Factor 23, High-Sensitivity Cardiac Troponin, and Left Ventricular Hypertrophy in CKD

Smith K, et al. Am J Kidney Dis 61: 67-73, 2013

【ポイント】 保存期CKD患者153例における断面研究。FGF-23レベルはトロポニンT/1と有意な関連を示すがLVMIで調整すると有意ではなくなる。FGF-23高値は左室肥大を介してトロポニン高値寄与する可能性がある。

【詳しくは】 <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/22883134>

## 最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(1月21日現在)

## 症例報告書回収状況報告

	観察開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目
前月	976	932	919	791	610	408	282	136	57	0
今月 (前月比)	976	932 (-)	919 (-)	803 (+12)	639 (+29)	441 (+33)	315 (+33)	171 (+35)	61 (+4)	11 (+11)

## 内容確認書（クエリー）回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE (イベント含む)	総数
発行	1124	769	609	606	504	276	209	77	37	964	118	18	57	5368
回収	1124	753	579	550	362	225	159	55	15	902	111	17	44	4896
回収率 (%) (前月比)	100 (-)	97.9 (-0.3)	95.1 (-0.6)	90.8 (-0.1)	71.8 (-1.7)	81.5 (+0.6)	76.1 (+1.7)	71.4 (+0.3)	40.5 (-)	93.6 (-1.2)	94.1 (-)	94.4 (+5.5)	77.2 (-9.1)	91.2 (-0.6)

## J-DAVID事務局からのお知らせ



### 共同研究費(2012年分)のお支払いについて

「共同研究費 振込請求書(2012年分)」を各ご施設のJ-DAVIDご担当者(代表者)様宛てにご郵送いたしました。ご請求締切は**2月末日(必着)**です。お手続き方法などは「振込請求書」に同封の案内書をご覧ください。

## J-DAVIDデータセンターからのお知らせ



### 18ヶ月観察までの症例報告書をご提出ください

2013年1月21日時点で、全登録症例の18ヶ月までの観察目安日が経過しております。未提出の症例報告書があるご施設様は、お早目にご送付くださいますようお願いいたします。2012年6月および12月に、内容確認書の発行をもって未回収症例報告書の提出依頼をしておりますので、お手元に残っている場合は速やかにご確認ください。



編集・発行：J-DAVID研究会事務局  
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科  
代謝内分泌病態内科学 内  
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808  
J-DAVID試験データセンター  
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページ(<http://j-david.info>)は、現在改修中です。ご利用の先生方にはご迷惑をおかけしております。3月初めごろリニューアル・オープン予定ですので、お楽しみに！